

流れ藻観測速報

鹿児島大学水産学部水圏科学分野
20240221

観測期間:2024年2月15日~20日
観測船:鹿児島大学練習船かごしま丸
観測海域:東シナ海~薩南海域

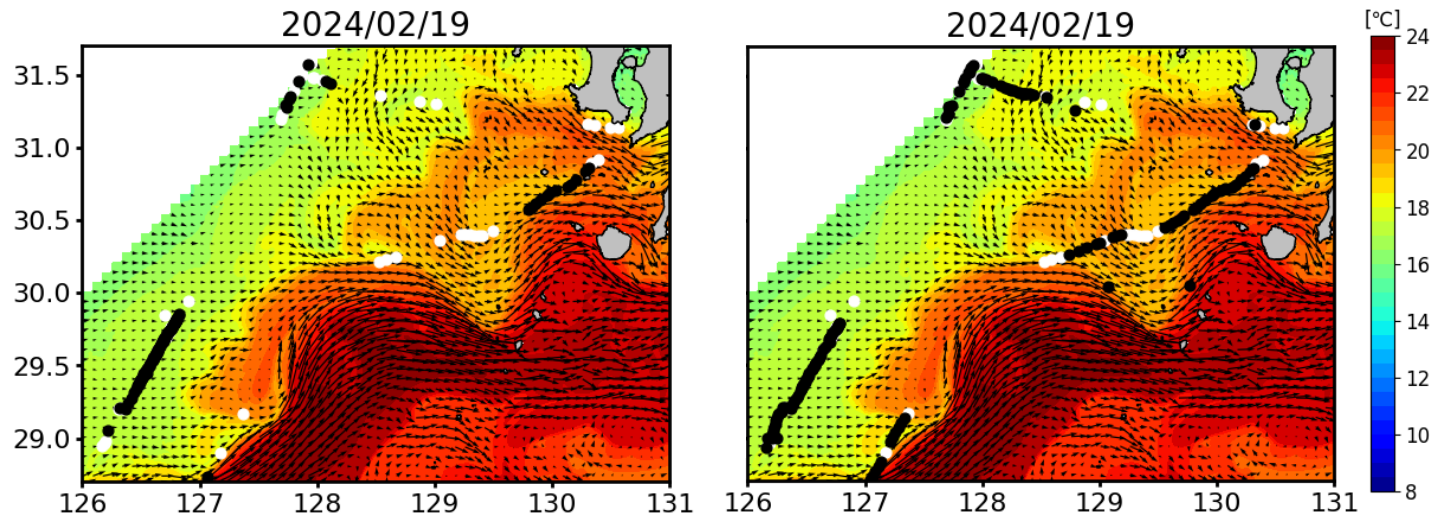


図1. 東シナ海~薩南海域における流れ藻分布(左)および漂流物分布(右). 流れ藻あるいは漂流物があった地点は黒点で示す. 白丸は観測を行ったものの、流れ藻あるいは漂流物が確認できなかった地点を示す. 背景は、高分解能海洋モデル(DR_E)で推定された2月19日の流向流速(矢印)および海表面水温(赤~青).

解説

鹿児島大学水産学部・工学部では、モジャコ漁のスマート化を目指した研究を行っている。モジャコ業の漁期前・漁期中において、薩南海域に來遊する流れ藻の情報を漁業者に提供するため、鹿児島大学練習船(かごしま丸)により、東シナ海~薩南海域の流れ藻観測を2月15日~2月20日に実施した。

東シナ海縁辺からトカラ海域へ転進する黒潮は、陸棚縁辺での黒潮フロント擾乱やトカラ海域西部での流路蛇行が、観測期間中に見られた。

流れ藻の集群は、大陸棚上の東シナ海北部(東経128度・北緯31.5度付近)および中部(東経126~127度・北緯29~30度付近)だけでなく、黒潮フロント近隣の硫黄島南部(東経130度・北緯30.5~31度付近)でも見られた。流れ藻の集群規模は硫黄島南部で最も大きく、東シナ海北部・南部がこれに次いだ。これら流れ藻の分布は、2月中旬の流れ藻予測モデルによる分布とほぼ一致した。漂流物の集群とその規模は流れ藻と同様であったが、黒潮フロント近隣でも見られた。

今後、2月18日~23日、3月26日~30日にも南星丸による流れ藻観測結果を公表する予定である。